

アザミゴボウ(立川ゴボウ;アザミバゴボウ)

1, 解説

会津坂下町立川集落を中心に栽培されてきたゴボウであり、鋸歯が良く発達しアザミ葉となることからアザミゴボウと呼ばれている。

現在、アザミ葉の品種はここ以外で栽培されていないため、本種は極めて珍しいものと言える。

栽培は容易で、肉質および香りが良く、ス入りしにくく、収穫が遅れても必要以上に太らないので在圃貯蔵性は高いが、収量は少ないという。

花色は赤(赤紫)で葉柄は赤軸である。根の基部から根先に向かって徐々に細くなる形状であり、外皮は褐色である。

来歴は不明であるが、集落に住む人の話や青葉高氏の著書によると、明治末には既にかかなりの広く栽培され、昭和初期には東京や大阪へ出荷されていたという。

現行品種に押され、栽培面積は急激に減少しつつある。

2, 写真



種子



本葉2枚展葉時の苗

(上:アザミゴボウ、下:滝野川ゴボウ)



生育初期の草姿

(上:アザミゴボウ、下:滝野川ゴボウ)



生育初期の草姿



生長点近くの若葉
(鋸歯が良く発達する系統)



生育中の草姿
(鋸歯がやや小さい系統)



収穫間際の草姿
(鋸歯の発達がやや小さい系統)



花(つぼみ)



花(赤花)



収穫物と荷姿



根の外皮(水洗いしたものを拡大)



根の上部(葉を切り落とした部分を拡大)



収穫物の保存状況(会津坂下町三橋氏)



根は真っ直ぐ伸長し、徐々に細くなる

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・会津坂下町で栽培されている。
- ・販売用の種子生産は無い。